

京都大學經濟學會

經濟論叢

第六十(卷) 第四・五號

鐵鋼業の共同研究について……………島 恭彦

鐵鋼業に於ける勞働力構成……………鐵鋼業共同研究勞働班

鐵鋼業に於ける流通機構の分析……………鈴木 重雄

鐵鋼補給金に関する一考察……………廣 田 司 郎

昭和二十六年十一月

成が行われたのである。

第二に鐵鋼勞働力の編成が戦前に復歸しつつあることに注意しなくてはならない。このことは既に指觸した通り、職員並びに技術員の工員に對する比率、普通工に對する役付工の比率、臨時工の數、性別構成、これらの變動より明かである。即ち敗戦後の、前述した人員整理に際して、職員、技術員、役付工は温存され、それらの勞務者或ひは普通工に對する比率は高かつたが、その後次第に生産復興が計られるや、その比率は減少してきた。戦前多かつた臨時工（鐵鋼業に於ては所謂職夫と呼ばれるもの）は最近若干減少してきたとはいへ戦後増加した。又鐵鋼業は元來男子勞働力に依據しなければならぬ性格のものであつて、それにも拘らず戦後一時は比較的多かつた女子勞働者が次第に減少してきた。かくて鐵鋼勞働力は漸次戦前の構成比に復歸しつつある。しかし尙これらは全く戦前の状態にまでは到していない。鐵鋼業がその再編成の途次にあることを示すものである。

第三に、右の如く勞働力の再編成が行われてきているとはいへ、その構成する鐵鋼勞働力の質的内容の低下を看過することは出来ない。前述した年齢構成、勤続年數別構成の分析より明かな通り、戦時と比較して鐵鋼勞働力の質は低下していると考えられる。

鐵鋼業に於ける勞働力構成

八幡製鐵所の場合も同様に異つた二つの面をみる。その作業内容、年齢別、勤続年數別、扶養家室前の諸構成よりみて、前者は概ね家計補充的女子勞務者であり、後者はそれ自體全くの賃金勞働者としての性格を擔つたものである。

かくして、鐵鋼業に於ける勞働力はその構成の點よりみて、普通鋼部門を基軸として再編成が行われ、漸次それは戦前の事態に復歸されつつある。しかし尙再編成の過程にあつて、且つ戦前に比して勞働力の質的低下があると考へねばならない。

追記

本稿は眞藤素一、與田柁、前川嘉一、山崎武雄の四名による共同研究によつてまとめたものである。執筆も各々が一部分づつ分擔し、その後加筆訂正、編輯したものである。（山崎）

執筆者紹介

- 島崎 恭彦 京都大學教授
- 山崎 武雄 京都大學助教授
- 前川 嘉一 京都大學講師
- 眞藤 素一 京都大學學院特別研究生
- 與田 柁 " 京都大學學院學生
- 鈴木 重靖 " " "
- 廣田 司朗 " " "

研究委員

(會計委員)

(研究委員)

(編集委員)

(編集委員)

(編集委員)

(會計委員)

青阿岡大岸木佐靜島嶋田田出豐中平降穂堀堀前山松山山吉
 山部部野本本津杉口中崎谷井旗積江川井岡崎村
 秀利英隆誠英正宣恭亮眞俊武文英保嘉 亮武達
 夫統良憲二郎郎雄平均彦二競晴藏稔實彦彦雄一藏一清一雄次

編輯人

印刷人

印刷所

發行所

發賣所

前田昇三

京都市上京區大宮通一條上ル西入榮町

鈴木直樹

京都市中京區壬生花井町三

日本寫眞印刷株式會社

京都市中京區壬生花井町三

京都大學經濟學部內
京都大學經濟學會

振替口座大阪五〇五三九番
日本出版協會會員
番號B一—一〇五六號

株式會社
有斐閣

本店 東京都千代田區神田
神保町二丁目十七番地
電話九段(33)〇〇三二三番
〇〇三四四番

支店 振替口座東京三七〇番
京都市左京區北白川
農大電停前

本誌の購讀及び廣告はすべて有斐閣へ御申込み下さい

(禁轉載)

Keizai-Ronso

(THE ECONOMIC REVIEW)

Vol. LIVIII, No. 4, 5

November 1951

A Note on the Corporative Research of
the Japanese Iron and Steel IndustriesY. Shima

Labour Structure in the Japanese Iron
and Steel IndustriesResearch-group of
Labour in Iron &
Steel Industry

The Marketing Organization of the Japanese
Iron and Steel Industries.....S. Suzuki

An Essay of the Subsidies to the Japanese
Iron and Steel Industries.....S. Hirota

Published

by

KYOTO DAIGAKU KEIZAIGAKU-KAI

(KYOTO UNIVERSITY ECONOMIC SOCIETY)